

雅ねえの、みんなで取り組む

獣害対策講座 Vol.19

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

おさらいと予習

前回

前々回と前回は2回、タヌキやアナグマみたいなの、中小型動物の見分け方、田畑や集落に餌付けしてしまう原因とその対策について話したよ。

飼いだに餌あげてるつもりがタヌキにもススメにもあげたって人、けっこう多いのね。

今回

何度も話してるんだけど、西暦の新年は1月。学校や役所の年度始めは4月。そして獣害対策の年度始めは10月。来年の田んぼのイノシシ被害防ぎたけりゃ対策は10月から。

というわけでもう一度、獣害の本質について、あたしのたどりついた経過とか考えとか書いておくれ。

【差】の疑問

今は昔、初任地の農業改良普及所に配属された新人時代。

配属されてもすぐに戦力になるはずもなく、先輩のベテランさんと中堅さんの金魚のフンしてた。だって、あたしよりはるかに知識のあるプロの農家相手に「先生」なんてできるはずもないもんね。

だから、まあ、見習い期間というわけで、最初はベテランのNさん、Sさんにくっついて現場にでることになった。

果樹のSさん、野菜のNさんともに、相談を受けた畑で鮮やかに害虫や病気の診断を下し、的確な対策を談笑も交えながら話しては、次々とその日の巡回仕事をこなしていく。

二人の後について仕事ぶりが「恰好いいなあ」と思いついながらもふと疑問がおきた。

野菜や果樹の産地というのと、同じ作物の畑が隣接して並んでることも多い。

相談を受けた畑はたしかにひどい被害なんだけど、なんでその隣に「なんともない」畑があるんや？

気候も品種も栽培層も防除層も生産組合内で共通なのに、この【差】はなんやねん？

【差】の研究

ひどい害虫や病気の被害を受けてる畑と隣あわせなのに「なんともない畑の【差】の疑問を抱えたまま、4年で農業試験場に異動。

「もつと普及員でやりたいことあるのに何で試験場？」
「試験場の病虫害部署で職員でた、それにお前はもともと試験場要員で採用されとる」って、聞いてないのに。

ま、そこはコームインの悲しさ、行くしかない。

配属は害虫担当。

行ってみたら、研究室は顕微鏡、実態顕微鏡、昆虫採集用具や実験機器類がずらり。

飼育室には虫の飼育に使う温度と光の調節のできる恒温器がずらり。

標本室は壁全面天井まで昆虫標本箱の棚ってまるで大学の研究室みたい。

「今、奈良県の農家は野菜も果樹も害虫ではハダニの研究が多い。君はハダニの研究をしてくれ、被害防止のためなら何やってもええ」と課長。遊び心も趣味もある広い心の課長でよかった。

しめた、何やってもいいなら「ひどい被害の畑」と「なんともない畑」の【差】を研究してやれ！

「君ねえ、ハダニ研究するなら、まず飼育方法覚えた方がいいよ、ポットに栽培した植物に接種する方法とシャーレに葉をいれて個体飼育で・・・」と聞いてもないのに話しかけてくるのは係長。研究とはこうあらねばの典型的なおじさん。

こちらは無視。

【差】の畑下さ

柔軟な頭の持ち主みたいな課長に思い切って言ってみた。

「あの一、実験器具とかじゃなくて、好きに使える畑ほしんですけど」

「何するんや？給料安いから勤務時間に野菜作って内緒で儲けるいうなら一口のるぞ」

「あのね」と【差】の話。

「被害ひどい畑」と「何ともない畑」の管理方法の違い徹底的に検証とか聞き取りやって、両方の方法で栽培してみてもホントに差がでるか実